

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101554		
法人名	社会福祉法人 清潮会		
事業所名	グループホーム しおさい		
所在地	長崎県西海市崎戸町蠣浦郷17番26号		
自己評価作成日	平成 31 年 1 月 18 日	評価結果市町村受理日	平成 31年 4月 2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 31年 3月 12日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かで海の見える場所にあり、景色や環境は懐かしさがある。オープンキッチンとなっている台所からは、食欲を誘う良い匂いがいつも漂っている。それに誘われるのかのように、リビングには自然とご利用者が集まり、職員との会話も弾んでいる。7年前より笑いヨガを取り入れており、毎日笑顔が絶えず、家庭的な雰囲気の中で、明るく楽しくゆっくりをモットーに、一人一人の出来る事をして頂きながら、ご利用者の方々・職員がお互いに助け合い、又、ご家族の協力も得ながら、その人らしい生活を務める様、サービス提供を行っている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは西海市崎戸町の自然豊かな環境に恵まれた場所に位置している。ホーム内は共用空間や廊下が広く、解放感に満ち溢れた空間づくりがなされており、共用空間にも仕切りを設けていない。職員は共用空間で入居者と会話をしながら料理を作りつつ、いつでも入居者の要望に応えられるよう見守りの体制を整えている。居室の家具等の配置については、入居者本人・家族・職員と一緒に考えてその方らしい居室づくりができていいるほか、職員はホームの清潔保持にも努めており、室内の動線の確保についても配慮がなされている。運営推進会議ではメンバーによる有意義な意見交換がなされており、充実した会議内容となっていることが窺える。ホームでは笑いヨガを取り入れており、入居者と職員の間には笑いが絶えず、また、ホームの支援内容について家族も協力的であり、入居者にとってその方らしい生活に繋がっていることが窺える。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホームしおさい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基に、地域密着を踏まえた理念があり、「節度」の意義を持って、目標に「明るい挨拶」を掲げ、地域との信頼関係に努めている。全職員でその目標を共有し、ご利用者が安心して、笑顔で生活出来る様なケアに努めている。	ホームでは明るい挨拶を目標に、これまで積み上げてきた介護の実績を地域に伝えることが役割であることを踏まえ、地域との互助関係を意識した取り組みがなされている。職員はいつも明るい笑顔で挨拶することの実践に努めるとともに、半年に1回は個人目標を設定し、目標の達成に向けて日々の職務に従事している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	全職員が積極的に挨拶に努めている。広報誌を行政窓口置き、事業所の周知を図っている。地域の行事は、自治会長様や民生委員様から情報を得て、花火大会や神社の祭りに職員と一緒に参加している。日頃から、笑顔で近所付き合いをしており、地元住民との繋がりを大切にしている。	ホームでは町内会には加入していないが、運営推進会議メンバーである自治会長や民生委員を通じて地域の情報を得ており、回覧板等で地域の活動を把握できている。また、地域住民との交流ができるよう、花火大会や神社の祭り等に参加し、顔馴染みの関係継続を図っている。更に、同法人が作成する広報誌を地域住民にも配布するなどし、ホームの理解に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の時等、職員が行っている認知症の方への支援内容等を伝え、出来る限り地域に役立つ事が出来る様に、努めている。他、法人での研修内容も、運営推進会議時にお伝えもしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回規定のメンバーで開催している。施設の行事や状況を報告、職員が受講している研修内容の報告、他、ご利用者の体調や事故の報告も行っている。事故報告では、原因と対策を公表し、運営の透明性を図っている。参加者から外出先候補や災害対策の意見を取り入れ、運営に活かしている。より多くのご家族に参加して頂ける様にお声を掛けたり、少しでも興味を持って頂ける様に、推進会議開催報告書を各ご家族へ配布している。	運営推進会議は行政・社会福祉協議会職員、自治会長、民生委員、家族代表、入居者で構成され、職員が受講した研修の内容報告や季節による感染症への取り組みのほか、入居者の状況やヒヤリハット・事故報告等を伝え、出席したメンバーからの意見を聞き取っている。会議ではメンバーによる有意義な意見交換がなされており、議事内容を詳細に記録している。また、会議に必要なレジュメ等も準備するとともに、運営推進会議メンバーや家族には案内状を送付し、参加の呼び掛けが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の方に参加して頂き、ホーム近況報告や手続き等、不明点の問い合わせ・適切な返信や対応を得ている。自然災害訓練について、地域で想定される災害について、崎戸消防署等から情報を得て、協力関係を構築している(月1回の避難訓練の際の通報訓練、年1回の消防署と地域の消防団との訓練も行っている)。	運営推進会議に行政の担当職員や社会福祉協議会職員が参加しており、ホーム運営や各種制度に関する不明な点について質問するなど、日頃から密な連絡を取ることができている。また、防災に関して消防署や地元消防団への協力依頼もできており、ホームの全般的な協力体制が整備されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会が設置されている。法人で毎月1回委員会があり、全職員が年2回の研修を受講している。事業所職員が具体的な例を挙げて、拘束に該当するか否かを検討している。研修が出来ない職員には管理者が伝え、改善方法や取り組みを検討している。玄関施錠やセンサーマットはなく、見守り中心の拘束のないケアに取り組んでいる。	ホームでは身体拘束委員会を設置し、月1回委員会を実施している。法人内での研修には管理者を中心に受講し、修得した内容をホームの職員に伝達する研修も行っている。職員は身体拘束についての内容を理解しており、センサーマット等の使用も行っていない。今後も、引き続き身体拘束のないケアを実践する意向が窺える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で、身体拘束委員会が設けられている。その中に、虐待や言葉の暴力も含まれている。言葉遣いに対しても、職員間で注意しあっている。言葉遣いにも重心を置き、全職員で虐待に対する意識を高め、支援させて頂いている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は対象者となる方はおられないが、以前は生活保護を受給される方がおられ、その制度に関する資料を職員で見たり、説明に関しては市からの説明時に、ご家族に同席をお願いして、一緒に説明を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所する際、ご家族に重要事項説明を十分に行うと共に、玄関にも掲示している。疑問や不安がある場合、その都度直接説明したり、電話でもお話して理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用開始時に、相談窓口について文章を用いて説明している。ご利用の方とは、日頃の何気ない会話や表情・口調・行動でも、お気持ちを伝える様、努めている。ご家族の場合、面会時や電話を用いた会話の中や、年1回全ご家族が集まる行事(家族会)の中で、思いを汲み上げている。管理者と職員は、ご家族の希望を真摯に受け止め、サービス向上に繋げている。又、気兼ねなく話せる雰囲気作りにも努めている。	ホームでは家族会を年1回開催している。職員は入居者本人の意向を日常生活の会話の中で汲み取るよう努め、本人の希望に沿った支援に努めている。本人から知り得た内容は全職員で情報共有がなされ、その内容によってはケアプランへの反映に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や日々の申し送り等で、職員の意見や提案を聞いている。法人では、個人面談を実施しており、職員の年間目標と評価を確認する機会がある。本部での会議等、管理者から事業所の状況を報告、物品等購入の際は職員の意見を参考にしている。シフトの希望も優先し、職員が働きやすい職場環境を整えている。働きやすい職場作りにも努めている。	職員意見の汲み取りについては、職員会議や日常の職員同士の会話のやり取りの中で意見交換してきている。ホームでは人事考課制度を導入しており、年1回は法人本部において職員と個人面談を行い、あらかじめ設定した年間目標の到達度を評価するとともに職員の意見や提案を聞き取る機会が設けられている。入居者への支援に関しては現場から汲み取った意見を実践に結びつける等、現場の意見を尊重していることが窺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し、職員個々の努力や目標・実践を把握して、やりがい等各自が向上心を持って働ける環境作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は極力受講出来る様に考慮している。法人内では、各委員会が主催する研修があり、全職員が参加出来る様に努めている。参加出来なかった場合は、当事業所にて管理者や委員の方で研修内容を報告し、研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回の運営推進会議の時に、同業者である社会福祉協議会の職員の方にも参加して頂けており、情報の共有を図っている。他、近くのグループホームの方が時々来所されており、情報交換させて頂いている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃から、ご利用者の方と接する機会を多くして、何気ない会話の中から困っている事・不安な事を探り、又、話しやすい雰囲気作りを行い、良い信頼関係が生まれる様に、努めている。職員間で情報の共有を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日頃より、何でも話せる雰囲気作りを心掛けている。又、何気ない会話の中から、ご家族の本当の思いの把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の本当の思いを知った上で、十分な話し合いを行い、今一番必要な事を全スタッフで見極めていける様、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全スタッフが、「させて頂いている」という思いを常に持ち、ご利用者の方に接する事で、気兼ねなく毎日を過ごして頂ける様努めながら、暮らしを共にする同士の良い関係作りを努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や他電話等でご本人の様子をお伝えしていき、思いを共有出来る様努めている。しおさいで紙芝居がある時には、ご家族もお誘いし、いつでも気軽にご本人と共に行事に参加出来る様、努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用開始前に、ご本人・ご家族から生活歴を伺ったり、又、日常生活から伺った事を記録に残している。以前は、墓参りや自宅へ外出等、ご家族の協力もあり、又、地元へのドライブも出来ており、顔馴染とも楽しそうにお喋りされていた。天気が良い日にドライブにて、買い物等職員が支援している。	ホームでは入居前に生活歴を聞き取り、入居後の支援に活かすよう努めている。家族の協力を得て入居者の自宅へ帰宅できるよう支援したり、墓参りに行きたい方の希望を叶えたりする等、これまでの関係を継続できるよう支援に努めている。また、地元の祭りに参加することで入居者は顔馴染の方と会って会話を楽しむことができています。希望があればドライブに出かける等、できる限り本人の希望に沿うよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士で話し合ったりされ、支え合い過ぎられ、又、職員が間に入り共通の話題を提供し、会話が弾む様に、ご利用者同士の関係を支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後にも、その後のご様子等連絡を頂いたり、手紙も頂く事もある。外で偶然ご家族にお会いした時には、ご家族から近況のお話をして頂ける事等がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の思いを汲む為、職員はソファや居室等でゆっくり寄り添って話を伺う様、心掛けている。日常の行動や、ご利用者の表情に現れた意向を見落とさない様目配りし、毎回アセスメントを作成する時に、改めて希望や思いを汲んでいる。得た情報は個人記録等に記入し、職員は情報を共有している。又、ご家族の面会時に、何気ない会話の中からご本人の思いを知る様に、努めている。	職員は入居者との日常生活の会話の中で何気なく話された言葉を取りこぼさず把握するよう努めており、得た情報については個人記録に残すとともに職員間で情報共有し、その内容に応じてケアプランに繋げている。家族の面会時や電話連絡の際にも、会話の中から入居者本人の希望や思いを汲み取るよう努め、ケアプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前には、ご家族に詳しく生活歴をお伺いしたり、関係機関にも情報を頂く。それらを把握した上で、ケース会議の中で情報共有を図り、日々の状態を個人記録に残し、サービスの経過把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子は記録に残し、いつもと違う事が起こると詳細に記載すると共に、申し送りやカンファレンスノートにて、全職員で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用開始前、計画作成担当者をご本人と面談しアセスメントを行い、暫定プランを作成。新規は約1ヶ月で見直している。職員で話し合い、主治医にも情報を頂き、ご本人の意向をその都度伺って、介護計画を作成している。又、面会時や電話でご家族の意向を伺ったり、6ヶ月・1年で計画を作成し、同意を得て支援している。3ヶ月ごとにモニタリングを行っている。	ホームではケアプランの期間について、入居時初回は1か月間、その後の見直し時には3か月間と設定している。職員は担当入居者のADL(日常生活動作)、IADL(手段的日常生活動作)等のアセスメントやモニタリングを実施しており、この方にはどのような支援が必要なのかを意識した、ケアプランの目標に沿った介護の実践に日々努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践結果・気づき等、個人記録に記入し職員間で情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かす様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、ご本人・ご家族の状況に合わせたニーズに対応している。それらに合わせた、柔軟なサービスの実践に努めている。入院されていた方が退院される前には、改めてニーズの見直しをさせて頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源については、市に尋ねたり、他は運営推進会議の参加者からも情報を頂ける様、努めている。自治会長様が紙芝居をしているという情報を頂き、しおさいでの紙芝居が実現出来、皆様懐かしそうに見られていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族が希望される先生が掛かり付け医になっている。2週間に1回の定期受診にお連れしている。医師に直接ご本人を診て頂き、良い関係作りに努めている。ご病気の内容によっては、医師・ご家族を交え、今後の話し合いを行い、適切な医療を受けられる様に努めている。掛かり付け医は、ご利用者やご家族の希望を優先している。通院受診に、ご家族対応が出来ない時は職員が同行し、受診結果を面会時に報告している。往診時は、ご利用者の些細な変化報告し、適切なアドバイスを受けている。職員は情報共有し健康管理に努めている。緊急時、協力医の指示で救急搬送の手配をする手順を、職員は理解している。	ホームでは入居者本人や家族の希望に応じて、入居前からのかかりつけ医への受診支援を行っている。職員は2週間に1回の定期受診に同行するほか、他科への受診についても必要に応じて同行し支援している。歯科受診については状況に応じて往診にて対応を依頼するなど、柔軟な対応がなされている。受診時に家族が同行できない場合には受診後に家族へ電話で報告したり、面会時に受診の報告を行ったりしている。緊急時の対応についても医療機関と連携体制を確立しており、その際の手順についても職員は把握できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理は、主治医に相談している。ご本人の些細な変化も主治医に報告し、必要なアドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医には、ご本人の状態を常に報告しており、入院となった場合はご本人に合った病院の情報を、主治医より頂いている。入院中には、その病院関係者と密に連絡を取り合う等、連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時、事業所の終末期の在り方について、看取りをしない方針である旨、ご家族に口頭と書面でお伝えしている。重度化した場合を考え、早い段階からご本人・ご家族・主治医で話をさせて頂いている。ご利用者の状況により、主治医・ご家族・事業所で話し合いを重ね、ご家族の要望を基に、医療施設や他施設への紹介のご協力をさせて頂いている。重度化や終末期の事業所の指針は明文化しており、ご家族に口頭で説明した後、署名・印を頂いている。	現在、ホームでは看取りについての支援は行わない方針となっている。入居時に看取りの支援については行わない旨の文書を作成し説明しており、入居者や家族から同意書にて理解を得ている。当ホームでの生活の継続が困難となった場合における説明についても同意書に記載しており、家族や入居者から了承を得た上で入居することとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内において、ご利用者の急変や事故発生についての研修が実施されている。少しでも実践力を身に付けようと、日頃より努めている。心肺蘇生法とAEDの実施も、消防署員指導で行う事が出来た。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	避難訓練は月1回、必ずご利用者を交え行っている。夜間の訓練には、地元の消防団の方にも参加して頂いた。災害時の備蓄として、水やビスケット等も準備し、災害時の対策に取り組んでいる。近隣の方への協力も、いつもお願いさせて頂いている。運営推進会議では、しおさいの立地を考えた上で、大雨・地震時にどの様に避難・待機するのが一番安全かを、一緒に考えて頂いた。	ホームでは毎月入居者とともに自主避難訓練を実施しており、消防署や地元消防団との協力体制についても日頃より整えられている。地元消防団への避難訓練参加依頼や消防署へ初期消火指導を依頼し、AED(自動体外式除細動器)や心肺蘇生の訓練についても実施している。当ホームの立地環境での自然災害について、自治会長からの情報をもとに避難について各種災害を想定した避難場所の選択についての検討を行っている。	平常時から職員役割分担を明確にしておくことにより、有事の際には更に避難がスムーズに実施できると思われる。また、万一避難することになった場合に備えて避難場所を家族にも周知しておくことも必要と思われる。今後の更なる対応に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者に対して、目上の人という意識を常に持ち、接している。トイレ誘導時には、周りに聞こえない様に配慮して、誘導させて頂いている。他、誇りやプライバシーを損ねない声掛けを意識して、全職員で努めている。写真掲載についてもプライバシーを考え、ご本人・ご家族の希望に沿って、掲載している。	ホームでは入居者の尊厳を念頭においた支援がなされている。トイレへの誘導時には静かにさりげなく職員が車椅子を押して移動し、言葉に出さずとも入居者や職員の思いが通じ合う場面が窺えるなど、日頃からの信頼関係の構築がしっかりなされた成果の表れと言える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かをさせて頂く前には、必ず声を掛け説明を行い、希望をお伺いしている。他、仕草や表情から思いを汲み取り、自己決定に基づいた支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自室を好まれる方には自室で、リビングで皆さんと一緒に過ごされるのを好まれる方には、リビングで過ごして頂いている。散歩やレク等、その日の気分に応じ、ご本人のペースを優先し支援させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類・小物は、入所時にご自宅にある物を持ち込まれている。ご本人にも、着用したい衣類をその都度伺い、着て頂いている。ご家族からも、ご本人の好まれる衣類等の贈り物がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れ、何を食べたいかも尋ね、メニューに取り入れている。硬めが苦手な方には柔らかく提供したり、お一人お一人に応じ対応している。畑から取れたての頂き物の野菜がある時には、そのままをご利用者にお見せする事で、さらに食べる楽しみに繋がる様に、努めている。又、玉ねぎの皮むき・もやしの根切りを行って頂く事で、ご自身も調理に加担したというお気持ちに繋がり、さらに美味しさが増している様でもある。	ホームでは食べたいものを入居者に聞き取るとともに、食事形態も個人の咀嚼能力に応じた食事を提供している。調理に関しては入居者のできる能力を活かし、食事作りの過程で何らかの役割が持てるよう工夫が図られている。職員からは入居者に手作りの料理を食べていただきたいという姿勢が窺え、心のこもった手作りのおやつを提供などにより、入居者も日々楽しんで食事を摂ることができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事ごとに個人記録に残し、栄養・水分摂取量は把握している。吸い物やお茶を好まない方へは、好みの飲み物にて水分確保に努めている。自室のペットボトルにお茶を準備し、又、トイレの時等にお茶・白湯をお出しして、飲んで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し行って頂いている。ご自分で難しい方へは、職員が義歯を磨いたりのお手伝いをさせて頂いており、口腔内の清潔保持に努めている。義歯を使用されている方は、就寝前に義歯をお預かりして、一晩入れ歯洗浄剤に浸けて、朝には清潔な状態の義歯を毎日はめて頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握しながら、その人に合った誘導・促しを行う様、努めている。尿意の訴えがお出来になられない方も、その方のタイミングを計り誘導し、トイレでの排泄を心掛けて支援している。ポータブルトイレからトイレ使用になったという、事例がある。	職員は入居者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めており、個別にさりげなく、静かなトーンで排泄の声掛けや誘導を行い、できる限りトイレでの排泄を意識した支援がなされている。また、ポータブルトイレからトイレ使用になった事例も窺えた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、水分補給や食物繊維の多いメニューを心掛けている。食前に笑いヨガや口腔体操を取り入れ、楽しく笑いながら腹部や身体を動かして頂いている。又、主治医とも連携し、服薬の調整を行う。便秘の原因や及ぼす影響についても、十分理解している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ほぼ毎日お湯を溜め、ご希望される方は入浴して頂いている。入浴の断りがあられる方には、時間をおいて再度声を掛け、納得されたお気持ちで入浴を楽しんで頂いている。ゆっくりとした入浴時間を確保している。湯舟への移動に怖さや不安を感じる方には、シャワー浴で対応する事もある。柚子湯や菖蒲湯等、季節を楽しめる様な工夫をしている。	ホームでは入居者個人の希望に応じた入浴ができるよう毎日浴槽に湯を張るなど準備している。順番や湯温の好みについても個別に準備しており、本人の希望に応じて入浴を楽しめる工夫や菖蒲湯や柚子湯で季節を感じさせる入浴の工夫に努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	パジャマ着用については、それまでの生活習慣を尊重し、ご本人の安心されるスタイルで休んで頂いている。日中、休息出来るスペースを設けており、お好きな時にゆっくりと休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は、全職員が保管場所を把握しており、いつでも見れる状態になっている。薬の変更の際には、個人記録・カンファレンスノート・口頭で確実に伝達している。薬のセットと服薬前には、職員2人で必ず確認をしている。服薬時には、飲み込むまでを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれ好まれる仕事をお願いし、張り合いや喜びが持てる様、支援している。笑いヨガやレクでは、職員が雰囲気作りを行う事で、皆様笑い合い楽しく体を動かされてもいる。職員が洗濯物を持っていると「やらんね」という様に、自ら声を掛けて頂き喜んで頂いている事も多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの神社等へ希望に沿って散歩に出掛けたり、行事を通して地域の方から声を掛けて頂き、夜に花火大会や盆踊りに出掛けている。今はおられないが、以前はご家族のご協力、墓参りやご自宅へ外泊されたりされていた方がいた。ご利用者の体調に配慮しながら、外出を支援している。花火等、四季折々のドライブもあり、ご利用者が戸外に出る機会を工夫している。	毎年11月に行われる浅間神社祭りの際、ホーム駐車場で獅子舞を披露して頂いており、入居者は獅子の頭を噛んで無病息災を祈願されている。また、法人本部主催の風船バレー大会に、今回初めて入居者3名が参加し、同法人のデイサービスやで生活支援ハウスの利用者との交流もでき、楽しく参加している様子を記録に残されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がご家族へお任せしていたり、金銭管理が困難であり、ご家族希望で所持していない方が殆どである。ご利用者が買いたい物がある時には、その都度ご家族に相談し、立替金で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者が、番号を押し掛ける事は困難だが、いつでも電話出来る様にしている。ご利用者から申し出がなくても、時々こちらからご家族へ電話をし、ご本人と変わったりしている。手紙を書かれる方は今はおられないが、以前はいつでも手紙が書ける様に便箋と切手を用意し、いつでも出せる様に準備をしていた。ご利用者の電話では、会話が難しい時には職員が間に立ち、会話のお手伝いをさせて頂く事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を活け、壁にはご利用者の絵手紙作品や手作りカレンダーを飾っている。対面式のオープンキッチンで広々としたリビング、程よい採光で落ち着きがあり、外からの騒音は少ない。食事準備の時に音や香りが部屋全体に漂い、心地良い家庭的な雰囲気を醸し出している。ご利用者との会話が弾み・増え、安心して過ごせる空間となっている。職員による毎日の清掃に加えて、汚れの度にその都度清掃して清潔に保っている。	ホームでは対面式のキッチンとフロアに仕切りがなく、開放的な空間で入居者がゆっくりと安心して過ごせる場となっていることが窺える。職員は入居者と会話をしたり、見守りを行ったりしながら食事を作っている。フラットになった畳の居間には障子が設えてあり、和の空間が落ち着いた雰囲気を引き立てている。職員は毎日の清掃や手すりの消毒など清潔保持に努めており、清潔感のある共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や窓辺にはソファを置き、どこでも座れる工夫をしている。テレビを観られる時間帯には、お席をテレビの近くへ移って頂き、ゆっくり観て頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にも協力して頂き、以前から使用している家具や置物を持ち込んで頂いている。趣味の作品や家族の写真を飾られている方や、ベッドの近くに椅子や衣装ケースを置いている方等、様々である。ご本人が居心地良く過ごせる様にしている。又、清掃や空調管理を行い、快適な居室を提供している。ほぼ、以前と同じ様な家具の配置をさせて頂いている。	ホームでは入居時に馴染みの持ち込み品の説明を行っている。居室には入居者の使い慣れた家具等を置くことができ、入居以前の生活の継続ができるよう配慮されており、居者・家族・職員が話し合って家具等を配置している。室内は、毎朝職員が掃除機・モップ掛けを行い、清潔に保たれている。空調のフィルターについては、男性職員を中心として細やかな手入れがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ・浴室・洗面所等に、ご利用者の使い勝手を考慮した手すりを設置している。ご利用者によっては、居室内でも手すりを設置されている方もおられた。トイレは、一目で分かる様に見えるやすい文字の紙を貼り、自室ドアにはご希望者には、大きな手作りネーム札をお貼りしている(ご家族の了承を頂いている)。		